

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：			指標の求め方：※活動指標の設定が困難であるため、設定しない										
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：			指標の求め方：※成果指標の設定が困難であるため、設定しない										
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 （3年度）	第 2 年次 （4年度）	第 3 年次 （5年度）	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 （6年度）	第 5 年次 （7年度）	第 6 年次 （8年度）	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 （9年度）	第 8 年次 （10年度）	第 9 年次 （11年度）	第10年次 （12年度）	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 （単位/ ）	計画値													
		実績値														
	成果指標 1 （単位/ ）	計画値														
		実績値														
	評価内容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）					達成されている									
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）					変わらない									
		事業の効率性 （事業費に対する成果）					変わらない									
		総合評価					良好である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 基幹系業務システム（総合行政システム）のハード・ソフトウェア機器更新および保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	自己分析： 備荒資金組合への償還は完了しているが、基幹系業務システム（総合行政システム）のハード・ソフトウェア機器更新および保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	自己分析： 基幹系業務システム（総合行政システム）のハード・ソフトウェア機器更新および保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	判断理由： 平成29年度の総合行政システム更新では、サーバやOS等の更新のみならず、クライアントパソコンも更新しており、安定稼働の一因となっている。	自己分析： 基幹系業務システム（総合行政システム）のハード・ソフトウェア機器更新および保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5：安定したシステム稼働を維持していくためには、ハードウェアやソフトウェアの更新・保守を継続して実施する必要があるが、令和7年度中に基幹系20業務等を国のガバメントクラウドへ上げることが決定しており、ネットワーク構成が大きく変わることから、ガバクラ移行後の安定稼働に留意する必要がある。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0	13,573,000			13,573,000					0	13,573,000
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額			17,094,000	17,094,000	36,148,000			36,148,000			18,979,000	49,721,000	68,700,000	121,942,000
		予算計上額			18,979,000	18,979,000	49,721,000			49,721,000					0	68,700,000
		実績額		0	18,978,190	18,978,190	46,710,565			46,710,565					0	65,688,755
	事業費合計	計画額	0	0	17,094,000	17,094,000	49,721,000	0	0	49,721,000	0	0	18,979,000	49,721,000	68,700,000	135,515,000
		予算計上額	0	0	18,979,000	18,979,000	49,721,000	0	0	49,721,000	0	0	0	0	0	68,700,000
		実績額	0	0	18,978,190	18,978,190	46,710,565	0	0	46,710,565	0	0	0	0	0	65,688,755
	事業費予算の内容			イントラネット 関連機器(サーバ)の更新 委託料 18,979千円		委託料(廃棄処理等) 1,458千円 備品購入費 48,263千円										
	前年度予算との比較 (増減理由)			情報系サーバ保守期限到来に伴い、更新が必要となったことによる		情報系パソコンをノートパソコンに更新する等による										
実績との比較 (増減理由)			同額		入札による減											

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：	—	指標の求め方：※活動指標の設定が困難であるため、設定しない											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：	—	指標の求め方：※成果指標の設定が困難であるため、設定しない											
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/)	計画値													
			実績値													
	指 標	成果指標 1 (単位/)	計画値													
			実績値													
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
			自己分析：	自己分析：	自己分析： 情報系システムのハード・ソフトウェアの機器更新・保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	判断理由： 情報系システムのハード・ソフトウェア機器更新および保守により、安定稼働が一定程度担保されている。	自己分析： 情報系パソコンを全台機器更新したことにより、安定稼働が一定程度担保された。また無線LANに接続したノートパソコンを採用したことで持ち運びが可能となり、ペーパーレス会議システム等の利便性が向上した。さらに外付けモニターを配置したことで2画面での使用が可能となり、業務の効率化が図られた。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析														
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5：安定したシステム稼働を維持していくためには、サーバやセキュリティ機器（ファイアウォール、スイッチ等）、セキュリティ関連ソフトウェア（ウイルス対策ソフト、SKYSEA等）の更新を継続して実施する必要がある。また、いずれは情報系システムをクラウドへ上げることも検討する。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：キャッシュレス決済による証明書発行件数				指標の求め方：キャッシュレス決済による証明書発行件数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：キャッシュレス決済利用率				指標の求め方：全体の手数料収入のうち、キャッシュレス決済を利用した割合									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 2,256 実績値 751	2,256 1,547	2,256 1,175		2,482 1,439	2,482	2,482		2,707	2,707	2,707	2,707		
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 10 実績値 6	10 7.4	10 5.9		11 7.3	11	11		12	12	12	12		
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 年度途中であるR3.9月からの実施となったため、計画値を下回る結果となったものの、広報紙及び市ホームページ等で周知を図ったことなどにより、徐々に認知されたことから、今後も窓口等で引き続き周知を図っていく。	自己分析： 計画値を下回る結果となったものの、市ホームページ等で周知を図ったことなどにより、徐々に認知されており、今後も市民等の利便性向上のため、窓口等で引き続き周知を図っていく。	自己分析： 計画値を下回る結果となったものの、市ホームページ等で周知を図ったことなどにより、徐々に認知されており、今後も市民等の利便性向上のため、窓口等で引き続き周知を図っていく。	判断理由： 令和3年度途中から事業を開始し、実績値は計画値に満たないものの、決済手段が増えたことにより、キャッシュレス決済利用者のニーズに応えることができている。職員の仕事量は増えた一方、市民の利便性は高まり、市民サービスの向上が図られていることから「良好である」と判断した。	自己分析： 計画値を下回る結果となったものの、市ホームページ等で周知を図ったことなどにより、徐々に認知されており、利用率は前年度より1.4ポイント上昇している。今後も市民等の利便性向上のため、窓口等で引き続き周知を図っていく。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			国のキャッシュレス化の推進のもと、利用者は増加すると見込まれる。	国のキャッシュレス化の推進のもと、利用者は増加すると見込まれる。	国のキャッシュレス化の推進のもと、利用者は増加すると見込まれる。		国のキャッシュレス化の推進のもと、利用者は増加すると見込まれる。									
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 令和3年度途中から事業を開始し、実績値は計画値に満たないものの、決済手段が増えたことにより、キャッシュレス決済利用者のニーズに応えることができている。今後も事業を継続することにより市民への周知が浸透し、サービス利用者が徐々に増えることが見込まれるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：キヨスク端末設置店舗数（市内）	指標の求め方：キヨスク端末設置店舗数（市内）
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：発行した証明書の件数	指標の求め方：発行した証明書の件数
成果指標 2（「成果」をもとに設定）	指標名：マイナンバーカード交付枚数率 （R5～マイナンバーカード保有枚数率）	指標の求め方：マイナンバーカード交付枚数率（R5～マイナンバーカード保有枚数率）

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標1 (単位/箇所)	計画値	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12				
			実績値	11	11		12										
		成果指標1 (単位/件)	計画値	264	1,272		1,483	2,121	2,121		2,121	2,121	2,121	2,121			
			実績値	328	1,440		1,841										
		成果指標2 (単位/%)	計画値	50.0	60.0		70.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値		72.6	74.2		79.1											
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
			事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
			事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
			総合評価				良好である										
			自己分析： 年度途中であるR5.1月からの実施であったが、広報紙、市ホームページ及び窓口等で周知を図ったことにより市民等に認知され、またマイナンバーカード保有枚数率の増加に伴い、サービス利用者も増加したものと推測される。キヨスク端末設置店舗数（市内）の計画値に対する実績値1減については、庁内設置していないため。	自己分析： 市ホームページ及び窓口等で周知を図ったことにより市民等に認知され、またマイナンバーカード保有枚数率の増加に伴い、サービス利用者も増加したものと推測される。キヨスク端末設置店舗数（市内）の計画値に対する実績値1減については、庁内設置していないため。	判断理由： 令和4年度途中からの実施であったが、広報紙、市ホームページ及び窓口等で周知を図ったことにより市民等に認知され、またマイナンバーカード保有枚数率の増加に伴い、サービス利用者も増加したものと推測される。住民の利便性の向上、窓口混雑の緩和や待ち時間の短縮が図られたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 市ホームページ及び窓口等で周知を図ったことにより市民等に認知され、またマイナンバーカード保有枚数率の増加に伴い、サービス利用者も増加したものと推測される。キヨスク端末設置店舗数（市内）については、コンビニの新規開店により計画値の達成となった。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性				現状のまま継続												
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 令和4年度途中からの実施であったが、広報紙、市ホームページ及び窓口等で周知を図ったことにより市民等に認知され、またマイナンバーカード交付枚数の急速な増加に伴い、サービス利用者も増加したものと推測される。開始2年目の事業であり、今後も住民の利便性の向上、窓口混雑の緩和や待ち時間の短縮が期待されることから「現状のまま継続」と判断した。（令和5年7月15日現在の参加率全国67％ 北海道26％）				R8：				R10：						